

目 次

星と星団の年令決定	寿 岳 潤	190
樽前山班日食を見ざるの記	中 村 純 二	193
月報アルバム——日食観測アルバム(水沢),(東京天文台分光部班),(水路部班と樽前山)		195
天象欄——10月の天文暦, 対日照の観測		198
コロナの偏光観測	秦 茂	199
網走での日食観測	古川 麒 一 郎	200
網走日食観測記	山 崎 昭	202
雑報——新彗星ペライラ 1963e		203
乱流——日食余聞, 前山仁郎氏の訃, 人の動き, 海外天文家の動き		204

— 表 紙 写 真 —

7月21日の日食コロナ——札幌天文台日食観測隊第1班の後藤栄雄氏が知床半島の羅臼岳の海拔1400mの所で、口径60mm, f900mmのレンズの直接焦点で4時13分50秒に撮影、露出、1/2秒、Tri Xフィルム、パンドール8分現像のネガより引伸し。

◇東京天文台見学会 10月26日(土)午後3時~8時; 台内設備の公開, 夜間天体観覧あり. 但し雨天中止

月面とその観測

中野 繁著 B6判・288頁 定価 600円 円 100円

ソ連の宇宙ロケットが月に到着し、さらに月裏面の写真撮影が成功するに及び、ごくわずかの期間に月への関心が急激に高まり、月面地誌は新しい脚光をあびつつある。

ガリレオが最初の望遠鏡を向けて以来、月は順次そのペールをはがれ、山脈、火口、海とその姿を我等の前にさらしつつある。その業績の多くはアマチュア観測家の成果である。

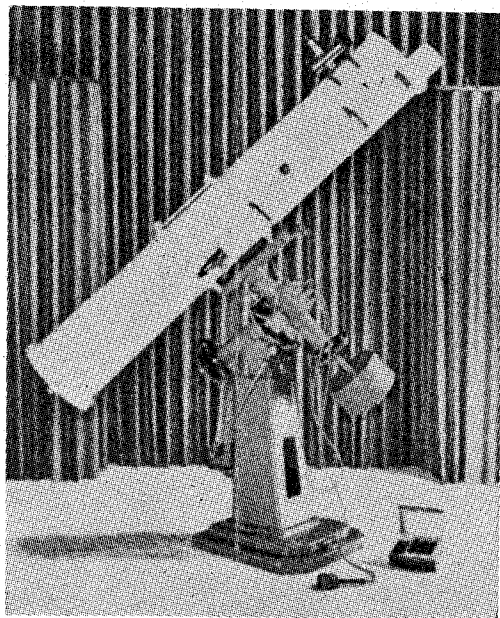
本書は月面地誌の面でも研究がすすみ、若干の真事実を追加した新版で、百四十余の月面詳細スケッチ、写真によって月世界の神秘にいどんだ、唯一の月面観測の手引である。月面折込み図5枚付

内 容

- I. 月世界への招待
- II. 月面観測小史 (月理学の発達・18世紀以後の月理学・近代の観測・月面地形の名称)
- III. 月面観測の手引 (アマチュアの月面観測・観測用望遠鏡・観測の目標・スケッチのとり方・写真撮影・参考書・月面の固有名詞)
- IV. 月面地誌 (月の海・山脈・噴火口・月裏面第1象限・第2象限・第3象限・第4象限)

東京都新宿区三栄町8
振替 東京 59600

恒 星 社



25 cm 反射赤道儀 (滋賀大学, 広島・梁々園)
(宮崎大学)

運転時計電動 (シンクロナスモーター)
赤経赤緯微動電動 (リモートコントロール)

天体望遠鏡専門メーカー 西村製作所
京都市左京区吉田二本松町 27 (カタログ要 50 円)